

= 特別寄稿 =

恵みをほどこす山恵下山

ふるさと恵下山守り隊 代表 平井時子



恵下山は高陽町に住むようになって、目と鼻の先にある山であり、小さな子供を連れ散歩をするにはうってつけの場所でした。ほんの 60 分程度の展望台からは芸備線の電車が行き交うのが見え、清らかな太田川の流れは大河のように美しいものでした。

対岸の安佐南区の山々は、夕陽と共におだやかに一日の終わりを見守ってくれるようにでした。そんな高陽町での子育ては恵下の山々共に何と幸せな心をもたらしてくれたもので

恵下山の整備に、地域貢献例会としてもりメイト倶楽部が関わって、この1月例会で約20年になります。写真は朝のミーティングにてご挨拶を頂いている様子です。この度の例会にて平井さんは代表を退かれます。この折に、「もりの手紙」にぜひ寄稿をお願いした所、快く受けて下さり掲載させて頂く機会を得ました。

恵下山との出会い、注がれた想いに共感、これまで我々倶楽部が行ってきた活動に誇りを感じずにはおれませんでした。

平井さん、長きに渡りお疲れさまでした。誠に、ありがとうございました。

でしょう。その山々が年を経るごとに樹々が成長して来て、うっそうとした密林のようになって、山に行くには勇気がいるようになりました。あげくの果てには、こわい人が出るので子どもだけで行く事は危険とまで言われるようになったのです。そこで何とか美しく、誰でも親しく楽しめる山にするにはどうすべきかと考えたのが「まもり隊」のはじまりでした。でも、太った樹々の始末は、なんの技術も技も持たない私達には手も足も出ない代物でした。

そこでめぐり逢ったのが「もりメイト倶楽部」さんだったのです。そして、代表の山本さんと市内でお逢いし、事情を話して助けていただく事になった時はどんなに嬉しかった事でしょう。そして年に一、二度多勢の山男、山女、山を愛する人々が来て下さる事になったのです。そこから徐々にあかるい山肌が見えるようになったのです。その時はじめて山仕事というものを知り、オロオロしながら見つめるだけだった私です。山男、山女のたくましさにどんなに感動した事でしょう。そして山や樹木は、人々とともに育ち生活していくのが幸せなのだと思うようになったのです。恵下の山々に永遠に幸あれ！！



